

国語における「課題発見・解決学習」の実際

1 本事例における「課題発見・解決学習」のポイント

①本事例における「課題発見」のポイント

- 文章を読んだ後に、それぞれの生徒が挙げた疑問を「みんなで考えたい疑問」（課題）として整理することで、作品の主題につながる課題の設定が行われている。
- 読み取った内容と疑問を複数の段階で整理することで、より深い読解へとつながる疑問を生徒自身で発見することができている。
- より深い読解に向け、一定程度の読解をしているからこそ新たな疑問が生じ、追加課題が設定できている。

②本事例における「教師の働きかけ」のポイント

- 教師のファシリテートにより、本教材を読み解く際の「読みの焦点」を考えさせ、それらを踏まえて読解させることで、生徒は目的を持ち、主体的に読もうとする姿勢につながっている。
- クラス全体で課題を設定する際に、教師が今後の学習の見通しを持たせ、より深い読解へとつながる方向性を示している。
- 「読みの焦点」ごとのグループを編成し、読解を深め、クラス全体で共有した後、設定したそれぞれの課題について各自で考察させる。その後異なる「読みの焦点」を担当する生徒のグループを再編成し、複数の「読みの焦点」から課題についての考察を行わせている。
- クラス全体での質疑・応答の際には根拠に着目するよう促すとともに、グループでの生徒の発言を適宜取り上げながら、作品の主題につながる課題を設定させている。
- 再編成されたグループ協議の後の発表の形態として、グループごとのセッションが実施され、それぞれの学習者が質疑・応答を通して課題についての考察を深めている。
- クラスで設定した複数の課題が相互に関連付けられることを教師が示し、一つの課題に対して解決を図るだけでなく、別の課題と関連付けながら深い読解を行い、作品の主題につなげることができている。

③本事例における「振り返り」の工夫

- 「読みの焦点」を踏まえ、発見したことをグループで共有するという活動を通して、本教材以外の文章を読解する際にも活用することが可能な読解の方法を、生徒が自覚的に身に付けることができるよう工夫している。

2 指導助言者(広島大学大学院教育学研究科 間瀬 茂夫 教授)から

○国語科における課題発見・解決学習のプロセス

国語科における「課題発見・解決学習」は、生徒が対象であるテキストに対して持つ「問い」からはじまり解決へと至るが、そのプロセスには次のような5つのポイントがある。①問いは、まず、対象側にある情報と生徒が自己の内に持つ知識との関係によって生成されるが、そうした問いははじめから学ぶ価値のある「学習課題」であるわけではない。②テキストを分析したり、テキスト外の情報を調べたり、自己や他者と対話したりする過程で新たな問いが生まれる。そのようにして問いを書き換えることで、テキストの深層や自己とのつながりを問題化するようなより本質的な問いへと至る。③より高次の問いを生成し解決するためには、考えるための道具（思考の視点や方略）や教師の支援が必要である。④本質的な問いへの答えは、多くの場合一つではなく、問いに向き合う者同士の対話と協働によって吟味し合い、発展させることで相互に納得できる解決へと至る。⑤学習を通して獲得されるのは、答えだけでなく、問いの深め方や、解決のための学習方法、そして問うことそのものの意味も同時に学ぶ。

○ポイントから見た実践事例の意義

本実践を上記の5つのポイントから見ると、次のような意義が見いだされる。①・②1～2時において生徒が作成した問いを大事にし、課題1から3に集約しつつも、5～6時の授業における教師も参加した話し合いの中で、教師が機を捉え、作品の主題につながる「本質的な課題」を明確化している。③文学作品を読み解くため、「読みの焦点」を共有させ、学習を通して方略として獲得させようとしている。④課題の解決のためにグループによる協働を通して作品を分析し、自分たちの読みを導き出している。また、グループ間の交流を通して、読みの妥当性を批判的に検討している。⑤振り返りには、生徒が本単元の学習を通して到達した作品の主題の理解とともに、獲得した学習方法についても触れられている。

3 事例

◇ 本単元で育成する資質・能力

表現に即して読む力
根拠に基づき、考えを形成する力

◇ 学年 第1学年

◇ 単元名 小説 『旅する本』 角田 光代

◇ 本単元の目標

他者と協働しながら、根拠に基づき、設定した課題を解決する学習を通して、文章に描かれた人物の心情を表現に即して読み取り、主題に対する問いを設定し、その問いに対する自分の考えを記述することができる。

【本単元の特徴】

本単元の目標を達成するために、「読みの焦点」を踏まえながら小説を読解し、読み取ったことと疑問を整理する。クラス全体で考察する疑問を共有し、生徒は「読みの焦点」ごとのグループで意見交流し、クラス全体で読解内容を共有する。各自で疑問に対する説明を考え、異なるグループに属していたメンバーで新たなグループを再編成し、意見交流・全体共有を経て、各自で説明を考える形で課題解決を行う。

特徴的な登場人物の描写や、一冊の本との複数回の出会いを通じた登場人物の心情の変化、表現の技法等に注目することで、根拠を踏まえながら読み取ることに適した教材を用いている。

時	本単元の主な学習活動
1・2	教師のファシリテートにより、本教材を読み解く際の「読みの焦点」を考える。その焦点を踏まえ、各自で読解した後、疑問をリフレクションシートに記入し、その中から「みんなで考えたい疑問」を挙げる。
3・4	「読みの焦点」ごとのグループで意見交流しながら読解し、読み取った内容について、発表用資料を作成する。実物投影機を活用して、クラス全体に対して発表し、質疑・応答を行う。質疑・応答の中で新たに出された疑問を「みんなで考えたい疑問」に追加する。「みんなで考えたい疑問」に対する説明を個人で考え、ワークシートに記入する。
5	異なるグループに属していたメンバーで新たなグループを再編成し、異なる「読みの焦点」からの見解を意見交換し、「みんなで考えたい疑問」について発表用資料を作成する。
6	発表用資料に基づき、各グループの代表者が教室内の6カ所で同時に発表を行う。発表者以外は他のグループの発表を聞く。ローテーションで発表を行い、その後、「みんなで考えたい疑問」に対する説明を個人で考え記入する。主題についての考察をワークシートにまとめる。

◇ 学習の流れ(全6時間)

学習過程 (○教師の発問, ●生徒の反応予測)	指導のポイント	評価基準〔観点〕 (評価方法)
1 課題を見いだす。 ・これまで学習した小説との比較から感じたことや、注目した表現について意見を出し合う。 ●『旅する本』という題名が気になった。』 ●「主人公が何度も本を手にするのが不思議だ。」 ●「様々な国の古本屋の雰囲気が独特だった。」 ●「主人公自身の描写が多くある。」 ・出し合った意見をもとに、本教材を読解する際の「読みの焦点」を考える。 ○「読みの焦点」を意識して読解すると、どのようなことが疑問として挙げられるだろうか。	・生徒同士の話し合いを促し、様々な感想や気づきから、「読みの焦点」を考えさせる。 【読みの焦点】(例) 「きっかけとなる出来事から心情に着目する」 「人物の特徴に着目する」「表現の技法に着目する」 「二つ以上の物の共通点に着目する」 【発問の意図】 「読みの焦点」を意識した読解を行うことで、文章の叙述に即した疑問を学習者から引き出す。	
2 課題を設定する。 【課題】(みんなで考えたい疑問) 課題1 なぜ古本屋の主人は、「その本」を「売っていいの」と何度も私に尋ねたのだろう。 課題2 なぜ私は同じ「その本」と何度も出会えたのだろう。 課題3 「旅する本」という隠喩はどんなことを意味しているのだろう。	・今後の学習の見通しを持たせ、作品の深い理解につながることを意識させる。	
3 課題解決を行う。 ・「読みの焦点」ごとにグループを編成し、作品を読み、根拠をもとに発見したことを整理する。 ○「読みの焦点」を踏まえ読解を行うと、どのような発見があるか。根拠とともに説明しよう。 ・各グループからクラス全体に向けて発表を行う。質疑・応答の中から追加課題を設定する。 【追加課題】(みんなで考えたい疑問) 課題4 大学の卒業旅行先のポカラでこの本を読んだとき、「いきなりミステリの様相を帯び始めた」のはなぜだろう。	・実物投影機を活用し、質疑・応答を行わせる。 【発問の意図】 「読みの焦点」を踏まえたことで、一定程度読解できたことを、グループでの共有を通して自覚させ、根拠を明確にさせる。	
・異なる「読みの焦点」を踏まえたメンバーでグループを再編成し、それぞれの課題について考察する。 4 自分の考え(解決策)を表現する。 ・「読みの焦点」ごとのグループでの交流、異なる「読みの焦点」を踏まえたグループでの交流を経て、各自が課題を解決する。 5 振り返りを行う。 ・作品の主題についての考察を単元リフレクションシートに記入する。	・「読みの焦点」ごとのグループ活動の後、グループを再編成し、異なる「読みの焦点」に注目したメンバーとグループ活動を行うことを伝える。 ・「読みの焦点」ごとのグループでの交流後に記述したものに加筆させる。 ・登場人物の心情及びその変化、作品の主題を捉えることができたか確認させる。	複数の視点からの見解を反映させながら、疑問に対して自分なりに説明し、主題について記述している。 〔読む能力〕 (ワークシートの記述)

◇ 実践結果

【課題の練り上げの状況】

- 教師は、生徒が読み取れたこと、疑問に思ったことをワークシートにまとめさせた。さらに、「みんなで考えたい疑問」として、生徒に疑問を挙げさせた。教師は、生徒の挙げた疑問を集約し、多くの生徒が挙げた疑問・作品の主題につながる疑問という視点から精査し、課題として生徒に提示した。
- 教師は「読みの焦点」を考えさせ、「読みの焦点」ごとのグループで読み取った内容をクラス全体へ発表させた。その際、生徒相互に質疑・応答を行わせ、「どのような表現から分かるのか」「なぜそのように読み取れるのか」といった根拠に基づく発表、質問を促した。教師は、質問をする形で明らかな誤りを修正したり、深い読解や主題につながる質問を評価したりした。
- 生徒が行った質疑・応答は次のとおり。

「なぜ、主人公はロンドンでこの本を読んだときに、言葉や表現に注目したのか。」
 『取材のために滞在した』とあるから、主人公はロンドンでこの本を読んだ時、書くことを仕事にしていたから。」
 「じゃあ、ポカラでこの本を読んだときはどうだったのか。」

- 生徒の発した、作品の主題につながる上記の質問を教師が取り上げ、追加課題として設定した。

【振り返りの成果】

- 「読みの焦点」を踏まえた生徒の読解例
 - ・「古本屋の主人は、長年生きてきたことによって人の心を読み取る能力に長けた人。」「私にとって大切な本であることを見抜き、声をかける優しい人。」
 - ・「大学生の私は、他人の言葉に影響を受けやすく、恋も知らない幼い私。」
 - ・「本を手にするたび、印象は異なり、新しい自分を見出す特別な本だという強い気持ちに変化している。」
 - ・「本に意思があるような書き方をすることで、主人公が意図せず、世界の本屋でこの本に出会うことを予感させる。」
 - ・「古本屋の雰囲気はどの国でも似たところがあり、それぞれの国の古本屋で本と出会う可能性があることが示されている。」
- それぞれの課題についての生徒の記述例
 - 課題1
「大学生の時、古本屋の主人は、その本が主人公にとって価値あるものだと見抜き、主人公の気持ちを確かめようとした。」
 - 課題2
「本を手にするすることで、自分の人生を異なる視点から見つめ、自分自身の成長に気付くため。」
 - 課題3
「私も旅をするし、本も旅をし、またどこかで会えることを予感させる。」
 - 課題4
「本との出会いも不思議であったし、高校生の自分と今の自分の違いも不思議に思えたから。」
「主人公が大学生活を送る中で恋愛の失敗や様々な経験をし、変わったことを表そうとしたから。」
- 振り返りにおける生徒の記述例
 - ・「出来事に注目して読むことで、出来事によって心情が変化したことが分かったし、『本を売る』ということも、最初は不要なものとして売っていたが、最後はまたどこかで会うことを期待して売ることになったことが分かった。」
 - ・「対比を使うことによって、説明文だけでなく、小説も読者に二つ以上の物事の違いをより分らせることができる。」

◇ 検証及び今後の方向性

【検証】

- 「読みの焦点」の共有
 - ・本教材を読み解く際の「読みの焦点」を考え、全体で共有させることで、生徒は「読みの焦点」を踏まえた読解を行った上で、疑問を出す学習活動を通して、主題につながる課題設定を行うことができた。
- 生徒の主体的な読解
 - ・生徒自身が読み取れたことや、疑問に思ったことを整理させることで、一定の理解に基づき、より深い読解につながる疑問を課題として設定することができた。
- グループ活動
 - ・「読みの焦点」ごとに生徒をグループ化し、本教材全体を「読みの焦点」を踏まえ、読み取らせた。根拠をもとに読み取り内容を整理させ、発見したことをグループ内で共有させ、クラス全体への発表を行わせた。
 - ・根拠を踏まえた発表を促すことで、生徒同士の質疑・応答を通して、根拠に基づく読解の結果を共有することができ、一定の読解が達成できたからこそ生じた生徒の疑問を、追加課題として取り上げた。ICTの活用、教師のファシリテートも大きく寄与している。
 - ・「読みの焦点」ごとのグループで、読解を深め、さらに「読みの焦点」の異なるメンバーでグループを再編することで、複数の「読みの焦点」から課題（みんなで考えたい疑問）について解決に向け、考察することができた。
 - ・「読みの焦点」ごとのグループを再編成したグループ活動の後、セッション形式で交流を行うという活動の見通しを持たせ、複数の視点から設定した課題を考えさせた。
 - ・セッション形式での交流は、それぞれの生徒が、発表者と直接意見交換することで、課題に対して主体的に関わる様子が見受けられた。「自分なりに説明し、主題について考える」という目標達成のための有効な手立てとなった。
 - 教師の働きかけ
 - ・複数の課題を相互に関連付けて考察させることにより、例えば、心情の変化とその変化の要因とを関連付け、作品の主題につながる読解を行うことができた。グループでの活動やクラス全体での活動を経ながら、ワークシートを活用し、個人で思考させることを複数の段階で行うことで、生徒に深い思考を促すことができた。

【今後の方向性】

- 深い読解の共有について
 - ・個人で考えた時の深い読解がグループ内で共有できていなかったことが課題として挙げられる。深い学びを実現するためには、優れた個々の意見が、グループワークの中で効果的に共有できるような教師のファシリテートが必要である。
- 単元リフレクションシートについて
 - ・自分自身の読解を自己評価するため、「単元リフレクションシート」に記述させ、読解の深まりを確認させた。複数の段階で課題について考察させたことで、読解の深まり、読みの変化を生徒自身が実感できるような工夫が必要である。単元を通して、「単元リフレクションシート」に記述させることで、初読の疑問から課題を発見し、協働的に課題を解決することを通して、表現に即して読む力の伸長を自覚すること、及び自分自身の考えをまとめることが可能となる。